

育英生からのお便り

埼玉県 真野 大成師

(第十四・十五回生)

前略 ご無沙汰を致しております。先日の方法には折角ご案内の一端に加えて頂きながら出席できず失礼致しました。久しぶりに皆さまの顔を拝見したいなとも思ったのですが、時節柄会つてもお喋りを楽しめる状況ではないので思い止まりました。

そこでいつも一方的に気に懸けて頂くだけでなく、たまには当方からのご挨拶せねばと思ひ、代わり映えのしないものですが、野菜を少し送らせて頂くことに致しました。厨房の体制がわかりませんで、もし手に余るような物でしたらお赦し下さい。小さい方の果葉はハヤト瓜と

いいます。少し味に癖がありますが、瓜もみのような形で食すことができます。田舎者はこのようなもので露命を繋ぎ大地に根ざし質実剛健に日々を過ごしている訳です。

サンガの集まりでは、ハッタバットと言って、お互いが前腕以内の距離に身を寄せ合うことが要求されています。お釈迦さまも今日のような事態は予測されていなかったのでしょうか。

未曾有のことで何かとご苦労の多いことと思ひますが、どうぞご自愛を忘れずにお勤め下さい。お寺の皆さまにもよろしくお伝えください。

早々